

## 会長メッセージ さらなるイノベーションへ



代表取締役会長  
東 哲郎

皆様のおかげをもちまして、今年東京エレクトロンは創立40周年を迎えます。この40年間、エレクトロニクス産業の発展とともに東京エレクトロンは皆様のご支援を得て成長してまいりました。特に1990年代後半、いわゆるIT革命を原動力として強い勢いでグローバル化が進行し、2000年のピークに向けて大きく市場が成長しました。

ファウンドリービジネスなどの新しいビジネスモデルの誕生や巨大なグローバル化の流れの中で、東京エレクトロンも市場の高い成長率に合わせる形で拠点・人員などインフラを整え、世界市場での事業展開を推進してまいりました。そして、この急速なグローバル化の展開なしでは、現在の事業規模と高い競争力は得られなかったことも事実であります。

### 新たな革新への構造改革

しかし、市場の大きな成長の裏で実態とはかけ離れた需要予測と期待により、いわゆるITバブルが発生し、現在調整期を迎えるに至っております。中長期的にはエレクトロニクス産業とその基幹部品である半導体産業も進化を続け、高い成長が期待できるという考え方に変わりはありませんが、半導体アプリケーションの牽引役として期待されるデジタルコンシューマー製品の需要動向を見るに、短期的にはパソコン関連製品の停滞を補うレベルまでの成長は難しく、従来のような高い比率での成長を前提とした戦略は現在、リスクが大き

いと考える。

東京エレクトロンはこのような考えのもと、以下2点につき決意を新たにして強力に推進していく所存であります。

1. 前期から今期へと不良資産を無くし、大きな構造改革を実施し、開発・製造・販売・サービスのあらゆる局面でスピーディ且つスリムなオペレーションを実現する。
2. これを真に成功させるためには、新しいトップマネジメントのもとに、将来を築く新しい世代が若いエネルギーを結集させて、新しく会社を築く意識を持って行く。東京エレクトロンは、あらゆる層の従業員が世代交代を受け入れ、協力して新しい目標に向けてチャレンジするという伝統を持っている会社であり、今後もその文化を貫いて行く。

本年6月の株主総会后、代表取締役社長に佐藤潔が就任いたしました。国内外における幅広い経験と若さを生かして、今後の構造改革と企業価値の最大化を推進するニューリーダーとして活躍できる人物と信じております。私は代表取締役会長として経営の基本方針の決定、中長期戦略の立案およびお客様、産業界、株主・投資家との関係構築といった新体制のサポートに注力し、東京エレクトロンのさらなる発展と株主満足構築にまい進してまいりたい所存であります。今後ご指導の程、よろしくお願いたします。

2003年3月期の業績と将来の見通し、今後の事業構造改革の概要については、新社長よりご説明させていただきます。